

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

12号

2009年3月31日



まちを創る

まちは何のためにあるのか。

それは、ひとが集い、助け合うことで

よりよい暮らしを創るため。

お互いに助け合い、高めあうことがまちの原点。

自分がみんなのために何かをしなければ、

まちが自分のために

何かをしてくれることはない。

まちに求めるのではなく、

自らまちを創る主体になれば、

きっとまちはよくなる。

みんなのために、まちのために

何かしよう、役に立とう。

そういうひとが増えると

まちはもっと輝く。

まわりのひとの幸せを

自分の幸せと感じるひとが

もっともっと増えますように。

目次

公益信託 高知市まちづくりファンド 2008年度ソフトコース中間発表会・ 2007年度ハードコース最終発表会

中間・最終発表会の流れ	2
プレゼンテーション	
「まちづくり一歩前へ」コース	2
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース	4
運営委員退任のあいさつ	4
2008年度ソフトコース中間発表会・ 2007年度ハードコース最終発表会を終えて	5

公益信託高知市まちづくりファンド 2008年度ハードコース 第2次公開審査会

第2次公開審査会の流れ	6
プレゼンテーション	
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」	6
質疑応答・コメント	6
運営委員の紹介	7
公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定	8

公益信託高知市まちづくりファンド 2008年度ソフトコース 2007年度ハードコース 中間発表会・最終発表会

中間・最終発表会 の流れ

2009年1月24日(土)開催の公益信託「高知市まちづくりファンドソフトコース中間発表会・ハードコース最終発表会」には、応募団体・一般合わせて約50名が参加しました。中間発表会ではソフトコースの8団体が事業の進捗状況を、最終発表会ではハードコースの1団体が整備事業の最終報告を行いました。

1 プレゼンテーション



助成先団体が事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表(ソフトコース3分・ハードコース5分)。参加者に、各事業についての良い点・質問・提案・その他の意見を、付せん書いてもらう。

2 付せん貼りタイム



記入済みの付せんを団体ごとに貼ってもらう。

3 意見交流



運営委員が貼られた付せんの内容を団体ごとに紹介し、参加者との意見交流を実施。

2008年度 公益信託高知市まちづくりファンド助成事業 ソフトコース 中間発表会

「まちづくり一歩前へ」コース

プレゼンテーション

活動テーマ フルバンドのサウンドで市民の中に文化の香りを～

GROUP 1 団塊バンド“サイコ”



12月にテレビ高知で、我々の活動が紹介された。イベントや施設訪問等々、9月から12月までの出演回数は12回。日高村へ出前ライブに出掛けた際は、演奏に合わせてお客さんの大合唱となり、大いに会場をわかせた。1月から7月までの出演予定は9回。結成から2年が経ち、イベントに呼ばれる回数も増えてきている。バンドメンバーは現在25名。18名ほどで演奏活動を行っている。助成金を活用してレパートリーを増やし、シングルバンドの演奏を充実させ、その力を発揮していきたい。

VOICE

- バンドメンバーの“生きがい”につながっている!
- 地域の中で多くの方に音楽文化を楽しんでもらっている。
- 主催者側と調整して、更に楽しめる会場の雰囲気づくりが出来るのでは。

活動テーマ わくわくワークるんだ商店街

GROUP 2 わくわくワークるんだ商店街実行委員会



わくわくワークるんだ商店街を実施した11月8日に、他の商店街でも子どもたちのためのイベントを行うなど、商店街全体との連携を取った。前回の参加者アンケートやジュニアバイザーの提案をもとに、看護師、宝石磨き、ペーグル販売、おもちゃづくり、漫画家の業種を新たにに加え、26業種とした。また、“るんだ通貨”を取り入れ、商店街の取扱店で使用できるように工夫。子どもと保護者を対象に参加前と参加後の意識調査アンケートを実施。アンケート結果を次回に反映させ、子どもだけでなく保護者のニーズにも対応していきたい。

VOICE

- 活動を継続してステップアップしている所が良い。
- 他の商店街と一体となって盛り上げる事業に発展している。
- 大学生がたくさん関わっている。

活動テーマ 健常者と障害者がふれあういきいきまちづくり

GROUP 3 船岡団地花いっぱい会



外へ出る機会をつくることでお年寄りや障害者の引きこもりを防ぐとともに、環境美化に努めた。7月は土づくりと花と野菜の植え替え、8月には船岡団地祭に初めて出店し、みんなで育てた野菜を使った焼きそば等を販売。次回も、みんなで頑張ってお店を出店したい。交流会を開き、出店した際のことや11月のミカン狩りのこと等について話し合った。メンバーも増え、交流会を通じてふれあいが取れるようになってきている。初参加のメンバーやお年寄りも加わって出かけたミカン狩りは、皆さんが喜んでくれて嬉しかった。

VOICE

- 花を通じての交流は、目標があり、やりがいがある。
- 一歩ずつ前へ進んでいるのが楽しみ。
- 活動の努力のあとがみえて良い。

活動テーマ 地域リハビリテーションサポーター養成講座

GROUP 4 大津地区地域リハビリテーション応援団



7月から10月にかけて養成講座を開催。応募条件を厳しくしたせいか、予定よりも少ない中学生10名、一般8名での受講となった。8月は地域の介護施設の夏祭り、風船で犬や花などを作って配り、サンキュー会のメンバーは食事の手伝いをした。次回の夏祭りからは、応援団主体で取り組みたいと考えている。11月は小学校のエコフェスタに参加。そして地域の団体をお願いをし、寄付もらえることになった。今後は、サンキュー会とともに「高齢者の低栄養化を防ぐ」と題した料理作りに取り組む予定。

VOICE

- 中学生も巻き込んで地域の福祉を充実させている点が素晴らしい。
- 受講後の活動の場づくりの工夫もみられた。
- 中学校に行って授業の一環として講座を開いては？

活動テーマ 父親が主体となる子育てイベントを通じての親子・地域の絆づくり

GROUP 5 こうちパパ楽会



全7回開催予定のイベントのうち、野外イベント3回が終了した。10月は親子で野菜を植え、その野菜を12月のピザづくりの時に、一部トッピングに使った。雨天のため延期となっていた、焼き芋づくりや宝探しゲームを1月に開催。父と子だけに限らず母親も含めて親子で楽しんでもらうことで絆を深め、いろいろな地域や講師を巻き込むことでまちづくりに寄与していきたい。イベントを通じて他の家族や講師と触れ合い、いろいろな喜びが生まれてきていると実感する。今後は、イベントへの参加を呼びかけるとともに、講師探しもしていきたい。

VOICE

- 親子の交流かつ、地域づくりにつながってきている。
- 父親の育児参加につながる活動である。
- 遊び場づくり、パパ、がんばって。

活動テーマ 華のあるまち・高知～フォトモザイク知っちゅう?～

GROUP 6 高知女子大学フォトモザイクプロジェクト実行委員会



中心商店街や地域との関わり、そして県内外を問わず高知の魅力をアピールしていくことを目的に活動している。第58回高知県芸術祭の吊り看板を、大学生ボランティアや、一般の人に手伝ってもらって製作。帯屋町二丁目でのイベントに参加し、子どもたちと一緒にフォトモザイクのパズル作りを楽しんだ。高知女子大学のオープンキャンパスと学祭で作品を展示。今後は、ひろめ市場、「土佐のおきゃく」、「こじゃんとよっちょれ祭」での作品展示等を予定している。

VOICE

- 作品を高齢者施設や病院にレンタルしたらどうか。
- 高知女子大の看板サークルになって。
- 活動を続けるための工夫をもっと学んで、ぜひ継続させていって欲しい。

活動テーマ 障がい児(者)の訓練会の事を地域に広めよう

GROUP 7 高知県フェニックス親の会



第31回高知療育キャンプには県外から2名の講師を招き、8月16日から5日間、開催した。参加者61名、学校の先生など19名の見学者、見学相談3名。月例会や、一泊ミニキャンプへの見学者・相談者も、これまでになく多かった。この他に、福祉・医療関係の専門学校への挨拶回りボランティアの依頼、活動会議、ボランティアガイダンスへの出展、動作法学習会、資金作りとしてバザーやお餅の販売を行った。我々の活動の認知度は上がったが、訓練をしてくれる人やボランティアが集まらないことと、資金不足が課題。

VOICE

- 活動の認知度が上がり、広がりができて良かったと思う。
- PR・営業活動の際に、どういう訓練で、どういう効果があったかも上手に伝えることが大事だと思う。
- マンツーマンなので、訓練をしてもらう人の確保は重要。地域で確保できれば。

活動テーマ 高知の同期100人出来るかな?～若手社会人をリンクしよう～

GROUP 8 RinK



助成事業には、まだ取りかかれていない。公開審査会の際、「若者を集めて結局何をするのか」という意見に対して明確な回答ができなかった。その答えを導き出してから事業に取り掛かろうと、メンバーで話し合いを重ねた。結果、高知で働く若者が新しいことを始めるきっかけづくりを企画・実行しようという考えに至った。中学校の総合学習等の時間を利用してもらい、自分の仕事を中学生に伝えていくような取り組みと、若手社会人に対する説明会や勉強会、座談会等の開催を計画している。

VOICE

- まずは異業種の若い仲間づくりからはじめ、地域コミュニティで若い人の出来ることを話し合ってみては？
- 大学生向きにも、若手社会人の話を聞ける機会を!
- まず、ネットワークを作ることから始めたら?

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース プレゼンテーション

活動テーマ 地域のネットワークの中心となる場をめざして -空店舗を利用した空間整備-

GROUP 1 アテラーノ旭



VOICE

- 声かけが上手。地域に広げて、とても根づいていると思う。
- 高知のまちづくり拠点のモデル。がんばって!
- 食事の提供や物販など、収入を得ながら交流している所が良い。

中間報告後も地域の人たちの工夫が加わって、まちのお茶の間は広がりつつある。整備をして綺麗になったトイレに、地域の人がカレンダーやメッセージ、花を飾ってくれて憩いの場となっている。また、地域の人が手芸品を作って販売するコーナーに棚を整備したことで作品が見やすくなり、作る人も買う人も楽しんでくれている様子だ。ミニギャラリーは、1か月に1度くらいのペースで作品を入れ替え、脳梗塞で片手が不自由になった人がリハビリを兼ねて描いた絵を展示するなど、地域の人たちに作品発表の場として活用してもらっている。また、旭で活動する4つの団体で実行委員会をつくり、地域の高齢者に参加を呼びかけて「年忘れ懇親会」を開催した。大学生にも応援に来てもらい、木村会館に約250人が集まって、芸能を披露したり、見て楽しんだりと盛り上がった。このように、アテラーノ旭を通じて地域の人と人とのつながりが広がりつつある。昨年末にはNHKの全国版の番組で我々の活動が紹介された。今後も更なる広がりを目指して頑張っていきたい。

運営委員 退任のあいさつ

2009年3月31日(火)をもちまして、3名の運営委員が退任されました。より良いまちづくりを目指して、応募団体への貴重なご助言を頂き、ファンド運営においてご尽力を賜りました。



2003~2004年度
運営委員
2005~2008年度
副運営委員長

玖波井加代子
(ひと&カラーコーディネータ)

多くの団体と交流できてとても楽しく、時には「選ぶ」ことが何より苦しく、一喜一憂した6年間でした。仕事や家事の合間に、あるいは眠い眼をこすりながら、分厚い応募団体の資料を隅々までチェックする作業は結構大変でしたが、それ以上に大変な思いをして応募された人のことを考えると、身が引き締まります。関わってくださった全ての人に感謝し、ファンドが発展していくことを願っています。



2003~2008年度
運営委員

半田 雅典
(高知県ボランティア・NPOセンター)

まちづくりに向けた情熱と行動力を感じたプレゼンテーション、緊張感と責任感を感じた公開審査会、切磋琢磨、交流を深める場となっていた発表会。たくさんの刺激と元気をもらった6年間でした。運営委員を退任しますが、市民活動の応援団であることは変わりません。今後も、市民活動をすすめる仲間として引き続き、よろしく願いいたします。



2005~2008年度
運営委員

玉里恵美子
(高知女子大学准教授)

ファンドの審査を通じて、高知のまちを元気にしていこうという人たちがたくさんいることを知りました。各団体がプレゼンテーションや運営委員のコメントを通じて成長していったり、時には団体同士のつながりができたりして、毎回、私がみなさんから元気と感動をもらいました。4年間ありがとうございました。またお会いしましょう。今度はまちの中で。

二〇〇八年度ソフトコース中間発表会・

二〇〇七年度ハードコース最終発表会を終えて

— 運営委員長 —

卯月盛夫

(早稲田大学教授)

アテラーノ旭は、小さいけれども、拠点をもつことによつて人が集まり、今までつながつていなかった周りのものが一つ、また一つとつながり、それぞれの大きな輪が広がっていくという、ハード部門のすばらしい事例となりました。

「食のまちづくり」は、産業振興、文化、福祉、コミュニティなど、いろいろ広がっていく可能性があります。地元でとれたものを食べるのが体に一番いいという身土不二や地産地消を進めることで産業振興になるし、食べるという行為だけではなくて、たとえば、地元産の腕や箸を使つて伝統的な料理を食べたりすれば、文化の伝承となります。配食、給食であれば、福祉にも発展しますし、オーブンカフェはコミュニケーションの場となります。独自のスタイルのものが今、まちづくり活動の輪を広げるのに、とても有効であるという流れの中で、アテラーノ旭は「コミュニティカフェ」、「コミュニティレストラン」として、全国的に見ても代表的な活動と言つてもいいでしょう。

私は、「新しい公共をつくる」ことが市民活動の一つの目標ではないかと思つています。日本では明治以降、公共という言葉が履き違えていて、「public」を「公共」と訳し、基本的に国や行政がすることと思つてきました。しかし、原語であるイギリスでは、「Public school」は「公共の学校」ではなく、「私立の学校」を意味しているんです。貴族階級の人たちだけでなく、市民にも教育する機会を与えようという背景があり、「みんなの学校」「市民のみんなが行ける学校」というのが正しい訳です。ロンドンで仕事帰りにお酒を飲みながら思い思いの話をする「パブ(Pub)」は、「Public House」の略で、「みんなのうち」なんですよね。

ですから、アテラーノ旭はもう完全に「Public House」パブなんです。

アテラーノ旭の活動は、「こうちパパ楽会」、「船岡団地花いっぱい会」など、他のグループの参考にもなりそうです。「Rink」も、例えば、コミュニティカフェのような場をつくつて人を集め、地域の問題や悩み、まちの話題の中からコミュニティビジネスを開いて、何かを生み出していく、というのも良いかもしれません。

市民によるまちづくり、非営利活動での収益は、次なるまちづくり活動に生かして、活動を継続していくためのもので、それがコミュニティビジネスの一番重要なことでもあるんですね。「団塊バンド サイコ」や「アテラーノ旭」もある程度の収益を上げ、活動状況を公表しながら、自立の道を歩み続けていってほしいと思います。

「高知女子大学フォトモザイクプロジェクト実行委員会」の活動は、屋外広告として広告代理店のようなこともできるのではないのでしょうか。文化的、芸術的なものとして社会に認められるようなビジネスモデルを考え始めても良いと思います。また、「高知県フェニックス親の会」も、シイタケを生かしたアイデアを生み出してみてもどうでしょうか。

「わくわくワークするんだ商店街実行委員会」で学ばべき点は、企業の参加ですね。私達が市民まちづくりを支援したり、活動する立場だったりすると、企業には寄付をお願いするケースが多くなりますが、「Take」だけではもう駄目で、「Give」もなければいけない。単なる宣伝効果だけではなく、社会的な存在をアピールするというところもあると

思うので、組織と組織の関係をもつて、企業にとつてのメリットも訴えながら、お付き合いをしていく。高知のまちづくりでは、新しい視点ですね。今後にぜひ期待をしたいと思います。

『石のスープ』というポルトガルの古い民話をご存知ですか？大きな戦争があつて、空腹の兵士が故郷へと向かう途中、近くの集落で食べ物を求めましたが、戦場となった集落であつたため、皆に断られました。彼はひもじい中、一つのアイデアを思ひ付きました。石を拾つて、ある家に行き、「この石は特別な石です。この石でスープを作ると、とってもおいしいスープができるので、すみませんが、鍋とお水だけ、少し譲つていただけませんか？」すると、「それぐらいならいいよ」という答えが返つてきました。次に、薪、塩、要らない野菜、肉の骨……と尋ね歩いて、少しずつなら提供してくれる人が増えていき、最終的には、おいしいスープをつくる事ができて、みんなと分け合つたというお話です。

一人の人間が持つている力というのは本当に小さなものだし、それだけではなんの役にも立たないかもしれないけれど、そこに何かひとつエッセンスを加えたり、コーディネートとなる人が目標図を示してみんなで何かをしたりすることで、まったく新しいものが生まれる。まちづくりの真骨頂として、参考にしていただけたらと思います。



第2次公開審査会の流れ

2008年8月3日(日)開催の第1次公開審査を1団体が通過。2009年1月25日(日)に開催された第2次公開審査会には、応募団体・一般・関係者あわせて25名の参加があり、審査の結果、助成が決定しました。

1 プレゼンテーション



応募団体が事業内容を模造紙に記載し、10分以内でプレゼンテーションを行った後、20分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が、審査基準の項目ごとにA、B、C、の3段階で評価
※ A、B、Cについては下表参照

3 質疑



審査基準の項目ごとに質疑応答

4 最終判断



各運営委員が助成対象として推薦するかどうかを判断

2008年度 公益信託高知市まちづくりファンド助成事業 ハードコース 第2次公開審査会
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース プレゼンテーション

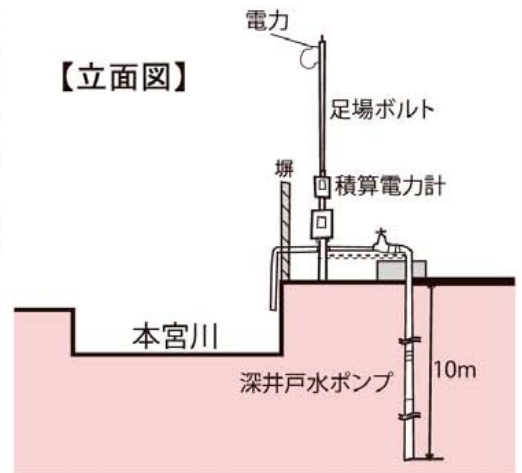
活動テーマ **夢をカタチに! ホテルが飛び、魚も生息できる本宮川をめざして!**

GROUP **本宮川の水辺と蛍の会**

本宮川のせせらぎを生かしたまちづくりがねらい。河川(水路)というものは、多様な生き物の生息空間であり、人間にとっても有意義な公共空間である。これまでもホテルの幼虫の飼育、菖蒲の植栽や川の清掃活動に取り組んできたが、大雨注意報が発令されると、本宮川一号水門と可動堰が閉まり、台風襲来が頻繁な時は年間30日ぐらいが水無川となる。悪臭がしたり、魚が死んだりするなどの問題を抱えているが、高知市の担当課より、浸水防止の関係で、水門の操作基準を変えるのは困難であるとの回答があった。

そこで、ポンプを設置し、そこから約20m西(上流)にある魚のプールまでパイプで水を流し、低水路を利用して、汲み上げた水を東にある魚のプールにつなぐことを考えた。ポンプアップの容量は毎分800リットルでドラム缶4本ぐらいの分量だが、これをそのまま川へ流しても数cmにしかならない。低水路によって東西のプールをつなぐことにより、次の水が来るまでの5日間、魚は生き延びることができる。ポンプの深さは10mで、個人の敷地に設置し、防護をするので、安全確保もでき、いたづらをされる心配もない。川全体を豊かに、環境教育の場として利用していきたい。また、南海大震災も視野に入れ、生活用水の汲み上げでも使用ができるよう、分水できるものをポンプ中に組み込む予定。

【立面図】



審査結果表

第1次審査通過団体 **本宮川の水辺と蛍の会**

● 一次判断

審査基準	公益性	地域まちづくりへの発展性	資金等の的確性	創意工夫	実現性	活動に対する意欲
A 評価できる	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■	■■■■■■■■		■■■■■■■■■■
B もう少し話を聞きたい	■		■■■	■■	■	■■■■■■■■■■
C 社会的に意義ある活動だが、助成趣旨には馴染みにくい						

質疑応答

● 最終判断

助成すべき	助成しない
■■■■■■■■■■	

(助成申請額300万円)

質疑応答・コメント

公益性

質問 ポンプ設置により魚を死なせないという目的は達成できるか？

団体 ポンプ設置となれば、高知市は低水路をつける方向にある。我々の思い描いているピオトープの形になるかどうかは別として、低水路がつけば魚は死なずにすむ。

地域まちづくりへの 発展性

質問 地域との関わりは？

団体 ポンプ設置で維持管理の手間も増え、電気代も年間6万円はかかると思うので、地域を挙げての資金確保と協力が必要。環境教育については、旭小学校区青少年育成協議会と話を進めていきたい。

資金等の的確性

質問 自己資金、約20万円の確保は？

団体 当団体の貯金30万円の中から充てる。

質問 ポンプ設置後の費用は？

団体 掘った土を盛り上げ、くい打ちをして石を積む程度なので、余り必要ない。

創意工夫

コメント ポンプは目的ではなく、まちづくりを発展させるための1つの手段。行政との協働事業を提案することにより、第1次公開審査会の時よりも発展してきている。

実現性

質問 本宮川は農業用水路。低水路や物の設置について、高知市の理解は示されているか？

団体 主管である河川水路課からは、低水路で東西のプールをつなぐことについて賛同を得ている。高知市は護岸補強のための整備を考えているようなので、掘った土を両サイドに置いて根固めをする点については同じ考え。ピオトープの構想は、我々とかなり差があると思うので、協議を重ねていきたい。

コメント ピオトープは、市民団体と行政が協働で取り組む先進的な事例として、市民の願いが込められている。内々に実施するのではなく、広報紙『あかるいまち』などにも協働の形ということで自信をもって紹介できる事例となるよう期待している。

コメント 300万円の助成で実施する、この事業は、「役所や市民をどうやって巻き込んでこの運動をするか」という極めて大きなプロジェクト。まちづくり推進課は、審査会の雰囲気、評価、白熱した議論を河川水路課や関係課、市長に伝えてほしい。そのための書面が必要ならば、運営委員が連名で書くことも、やぶさかではない。

活動に対する意欲

コメント ファンド助成で一歩前進できれば、市民参画型でピオトープをつくっていくという意欲にもつながっていくのではないかと。

運営委員の紹介



運営委員長
卯月 盛夫
(早稲田大学教授)

「本宮川の水辺と虫の会」は、これまでの地道な活動をふまえて、今回ハード部門の助成を受けることになりました。河川管理を担当する市当局と自然環境の復活をめざす市民運動の間には、まだ大きな隔りがあるようですが、この助成をきっかけに「新しい協働の形」を是非探って欲しいと思います。



副運営委員長
玖波井 加代子
(ひと&カラーコーディネータ)

行政の関係課との調整が難航しているようなので、最後まで迷いましたが、ファンドを通過することが大きな一歩として期待されていることを知り、思いきってGOを出しました。少しでも前向きな展開があり得るなら、ファンドが可能性を阻むものであってはならないからです。



運営委員
産田 節雄
(元高知市都市整備部長)

まちづくりの取り組みとして「協働」という概念があります。ギブ・アンド・テイクでなく、WIN・WINの関係でまちづくりを。お互いが対等な関係で協力していくことが大事です！



運営委員
四宮 成晴
(四宮計画事務所)

誠の豊かなまちづくりを進めるためには、それぞれの立場の人たちが、それぞれの「おもい」を胸に、それぞれの立場を認め合い、それぞれ真摯な姿勢をもって挑むことの難しさを知ることとなり、協働の大切さとむずかしさを痛感しました。



運営委員
玉里 恵美子
(高知女子大学准教授)

まちづくり活動をすすめていくと、拠点やシンボルが欲しくなります。それは、どの団体でも同じことではないでしょうか。拠点づくりには困難が伴いますが、地域住民が知恵を出し合い工夫を重ねて、それを行政が支援する。そんな公と共との良い関係が結ばれると良いなと思います。



運営委員
半田 雅典
(高知県ボランティア・NPOセンター)

まちファンによるハード整備助成の第2号となりました。「ホテルや魚を大切に川づくり」というハード整備助成。この助成が、地域の人の想いや団結力をますます高め、人と環境を大切にまちづくりに発展することを願っています。このたびは、おめでとうございました。



運営委員
堀 洋子
(社)高知県建築士会)

一次審査よりバージョンアップした計画を提案され、市の水路改修工事との併用でピオトープによる水辺再生を計画されています。かつての農業用水路が高知市の都市化とともに、利水・治水への改修が進み、汚れた生活排水路に変わってきた現在、地域の子どもたちに贈り物として、昔の自然豊かな水辺を再生させるまちづくりを期待します。



運営委員
増田 和剛
(高知中・高等学校教諭)

ハード事業は、町の景色作りをする活動に対して、ソフト事業は、その町に住む人々の意識を変えていくきっかけ作りをする活動だと思っています。そして、ソフトの活動を通じて、ハードの重要性を認識し、ソフト面をとりまとめる町の拠点として、大きな役割と責任があると思っています。



運営委員
宮地 貴嗣
(ラ・フィータ 宮地電機㈱)

人工的なものであふれた現代において、本宮川をホテルの飛び交う川にしようとしている皆さんに敬意を表します。実現に向けては、さまざまな課題があると思いますが、ぜひ乗り越えていただきたいと願います。



運営委員
森本 智香
(えほんの店「ココロ・サン」)

自分たちの生まれ育った町を守っていくという、当たり前のことを考える人たちが輝いて見えました。それだけ当たり前のことが、当たり前でなくなった時代なのでしょう。まちファンは、いつも大事なことを思い出させてくれます。今回のハードコースの審査は、まさに、まちファンの可能性を感じる時間でした。

● 公益信託 「高知市まちづくりファンド」 とは ●

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。多くの人にまちづくりに関心をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営を目指しています。

「まちづくりはじめの一歩」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めていますが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します。
助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

助成金額 活動事業費の $\frac{3}{4}$ 以内で、上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合わせ先：高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

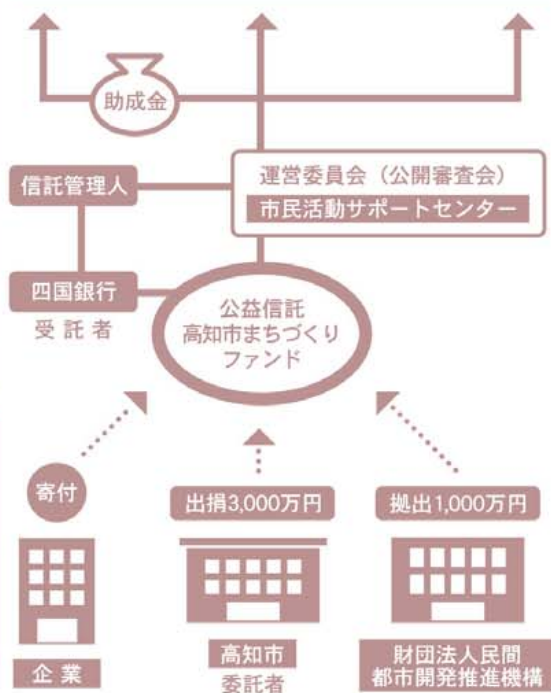
高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にしていこうと行うまちづくり整備事業を支援します。

助成金額 上限300万円 (助成率100%)

審査方法 第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体には、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成。第2次審査書類提出、現地調査後、第2次公開審査会において発表をしていただき、1件程度、助成先を決定します。

お問い合わせ先：株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当 TEL 088-871-2226

市民によるさまざまなまちづくり活動を支援



四国銀行コメント

株式会社四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていこうとのお手伝いができるよう努めていきます。

私たちもお手伝いします。

高知市市民活動サポートセンターコメント

当サポートセンターでは、まちづくりファンドの申請に関する相談や、公開審査会等の運営のお手伝いをしています。皆さまのまちづくりに対する想いを実現できるよう、支援していきたいと考えています。まちづくりファンドの申請に関すること、また、まちづくり活動や市民活動に関すること等、いつでもお気軽にご相談ください。

まちづくりファンドは 皆様がまちづくり活動を 支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に生かされるように、多くの皆様のご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、
下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1
電話：088-871-2226 (直通)

高知市 市民活動 サポート センター

市民に利用していただき、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

今後のまちづくりファンド(予定)

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、(株)四国銀行本店5階ホールを予定しております。

「まちづくりはじめの一歩」「まちづくり一歩前へ」コース

2008年度助成事業	
最終活動報告書の提出期限	7月6日(月)
最終発表会	7月25日(土)
2009年度助成事業	
応募受付期間	5月20日(水)～6月19日(金)
公開審査会	7月26日(日)

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

2008年度助成事業	
中間発表会	7月25日(土)
2009年度助成事業	
応募受付期間	5月20日(水)～6月19日(金)
第1次公開審査会	7月26日(日)

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
TEL：088-820-1540 FAX：088-820-1665
E-mail: npokochi@siminkaigi.com 【URL】 http://www.siminkaigi.com

100% 古紙配合率100%再生紙
を使用しています
PRINTED WITH SOY INK この印刷物は、環境に優しい大豆インキを使用しています。